

# 中級後期レベルの「文型練習」の作成と 実施報告

日本語科 専任教授 廣田 周子

日本語科 専任講師 石垣 美由希

## ・要旨

これまで中級レベルの文型練習用にいろいろな練習プリントを作成してきた。しかし、対象とする学習者によってはそのプリントが合っていないのではないかという疑問を持つようになり、新たな練習プリントを作成した。そのプリントの作成から実施を通して、中級レベルの文型指導の到達目標について再考の必要を感じたため、難易度や産出という観点から文型一覧を作成した。

## ・キーワード

中級後期 文型練習 文型指導 到達目標 理解度 意味理解 難易度 産出

## 1. はじめに

本校には4月入学の1年コースと10月入学の1年半コースがある。どちらのコースも入学時にプレースメントテストを行い、レベル別にクラスを分けている。『文化中級日本語Ⅱ』（以下「中級Ⅱ」）からスタートし、卒業時に上級後期レベルに達するクラスもあれば、『文化初級日本語Ⅰ テキスト 改訂版』から学習を始め（いわゆる「ゼロスタート」）、卒業時に「中級Ⅱ」終了というクラスもある。本稿で取り上げる「中級後期レベル」というのは「中級Ⅱ」を学習しているレベルという意味であるが、これまでの経験から卒業時に上級まで達するレベルの学習者<sup>注(1)</sup>と「中級Ⅱ」終了レベルの学習者には様々な面で違いがあることがわかってきた。例えば語彙力や読解力だけでなく、日本語に対する興味関心などにも違いが見られ、同じ「中級Ⅱ」を学習している段階でも同じような指導方法では学習者の力を伸ばしていくことが難しい、つまり、それぞれの学習者に合った教材や指導方法を考えていかなくはならないことに気付いた。そこで今回、「中級Ⅱ」で使用している文型練習プリントを「中級Ⅱ」終了レベルの学習者に合ったものに改訂することにした。本稿では、この練習プリントの作成過程から実施の報告を行い、それを通して文型指導の到達目標についても考えてみたい。

## 2. これまでの文型練習プリント

### 2-1. 「文型作文」

学習した文型<sup>注(2)</sup>が理解できているかどうかを確認するために、文型が入った短い文を書かせるという方法がある。本校ではそれを「文型作文」と呼び、授業で文型を導入、練習した後で「文型作文」のプリントを配布、書かせて回収し、添削している。前件を与えて後件を書かせるもの、前件も後件も書かせるものなどバリエーションはいくつかあるが、概ね以下のようなものである。

例1) 家族と離れて暮らしてはじめて\_\_\_\_\_。

例2) \_\_\_\_\_てはじめて\_\_\_\_\_。

以前はこのような形で文型の理解度を確認していたが、「中級Ⅱ」レベルの文型の理解度をこの方法で測るには以下のような問題があった。

例3) 山田さんほど背が高い人はいない。

例3)は「中級Ⅱ」第2課で学習する文型「～ほど…はいない／ない」を使った文である。この例では文の形は正しく理解しており、この文自体は間違っていない。問題は、この文の発話意図である。この文型は、自分が知っていることや経験したことなどから「本当に～は（自分にとって）一番…だ」と気持ちを込めて話す場合に使われる。しかし、この練習ではその部分が本当に理解できているかどうかはわからない。

例4) 今日は用事があるから友達とカラオケに行くわけにはいかない。

これは「中級Ⅱ」第1課で学習する文型「～わけにはいかない」の文であるが、前件にある「用事」をどの程度のものと取るかでこの文の正誤が分かれる。単に「用事」では簡単なことか重要なものかがわからないので、「～わけにはいかない」の理由として適切ではないと取る教師もいれば、言外に「大事な（用事）」があるものと考えて正しい文だとする教師もいるだろう。

これらの問題に共通するのは、それぞれの文型が使われる文脈が明らかでないことではないだろうか。そこで、本校では文脈をつけた「文型作文」を行うようになった。

### 2-2. 文脈をつけた「文型作文」

この「文型作文」は「中級Ⅱ」の文型の理解度を測るためには文脈が必要であるという考えから作成されたもので、学習者に書かせる文の前後にその文が話される状況や話者の気持ちがわかるような部分を入れた練習である。

例5) A: Bさんは、本当に\_\_\_\_\_が好きなんですね。毎日必ず食べていますね。

B: ええ。私は\_\_\_\_\_ほど\_\_\_\_\_と思います。

例5)は例3)と同様、「～ほど…はいない／ない」を使った文であるが、会話文になったことにより、Bが気持ちを込めて好きなものについて述べていることがわかる。また、この「文型作文」では単に下線部を埋めるだけでなく、前後の文脈を読み取って適切な言葉や表現を入れなくてはならない。この例であれば、Aが話している「\_\_\_\_\_が好き」とBの「私は\_\_\_\_\_ほど」の下線部分には同じ言葉が入らなければならない。この「文型作文」では自由度は制限されるものの、文脈があることにより、その文型が使われる場面や発話意図がより明確になったと言えるだろう。また、それらが明確になったおかげで、教師間の正誤の判断にも以前ほどのばらつきが見られなくなった。

しかし、この「文型作文」も使い続けるうちに新たな問題が浮上してきた。「中級Ⅱ」終了レベルの学習者の中に、語彙力や読解力が不足しているため文脈が読み取れず、正しい答えを導き出せない学習者が出てきたのだ。

例6) 日本には野球ファンが多い。友達によく「どのチームのファン？」と聞かれるが、私は興味がないので、答えに困ってしまう。  
日本人だからといって、

これは「中級Ⅱ」第1課で学習する「～からといって」を使った文で、学習者が下線部分に「野球が好きだとは限らない」という文を書き入れるというものである。しかし、文脈が読み取れず、下線部分に何を書いていいのかわからない学習者がいるため、この文から読み取れる一般的な考えとそれとは違っている部分が何かなど、教師が状況を説明してから書かせなくてはならなくなった。つまり、教師が誘導して答えを書かせるという事態になってしまったのである。この状況がいくつかの文型だけであればあまり問題にはならないのだが、多くの文型でこのようなことが起こり、学習者が自分で文脈を読み取り、考えて書くというプロセスが達成できなくなってしまった。

そういった中で、この文脈をつけた「文型作文」で学習者がきちんと文型を理解し、使えるようになるのか、それ以前に「中級Ⅱ」終了レベルの学習者にとって文型を使って文を産出するというのは難しいことなのではないかという疑問が生まれた。そこで、到達目標を「文型の意味、文型への接続の形、その文型が使われる文体などを理解する」ことに設定し、それが達成できたかどうかを確認する練習プリントを作成することにした。

### 3. 「文型練習」の作成過程

#### 3-1. 作成にあたって

新しい練習プリントの作成にあたり、2点を念頭に置いたうえで取り掛かった。その2点とは、「中級Ⅱ」で提出されている全ての文型について問題を作成すること、従来の「文型作文」とは異なる形式で作成することである。2-2. で述べたように、今回の練習の目的は「文型の意味、文型への接続の形、その文型が使われる文体などを理解する」ことだ。この目標を達成するためにどのような形が最も適切か検討した結果、別の表現で言い換え

られた文を、学んだ文型を使って正しく書き換えるという形式がよいのではないかという結論に至った。例えば以下のような問題である（青字が言い換え部分である。）

例) (レストランで)

A：ねえねえ、まだ食べられる？

B：うん、どうして？

A：量が多くて全部は食べられないから、食べてくれない？

B：うん、いいよ。

学生は問題の文を読み、下線部を「中級Ⅱ」で学習した文型を使って書き換える。この問題は「全部は～できない」という表現を第3課で学習した「～切れない」を使って書き換え、答えは「量が多くて食べ切れないから、食べてくれない？」となる。このような形式にすれば、文型の使用場面と意味、接続の形を理解できているかが確認できると考えた。そして、この新しい練習プリントの名称を「文型練習」とした。

### 3-2. 作成時に工夫した点、難しかった点

#### 3-2-1. 工夫した点

「中級Ⅱ」の文型には会話で使用するものだけでなく、書き言葉でしか使わないものもある。そのため、学生が文型の使用場面を理解できるよう、文型に合った文体で問題の文を提出した。また、初級文型では表現し切れない話者の心情が込められているものもある。例えば「中級Ⅱ」に「彼は若いだけあって何をやらせても上達が早い。」という文型が提出されているが、これを初級文型で言い換えると「彼は若いから何をやらせても上達が早い。」のようになるだろう。しかしこれでは、「彼の上達の早さの理由は若いからなのだ」と納得している話者の気持ちを忠実に表現できてはいない。そのような文型に込められた話者の心情を表現するために、文末に言葉を加えたり、副詞を入れたりした。

#### 第3課文型8 ～ものだ

学生時代、あんなに仲が悪かった二人が今度結婚するという話を聞いた。男女の関係というのは本当に不思議だ。びっくりした。

→男女の関係というのは不思議なものだ。

#### 第2課文型5 ～おかげで

初めて日本語でレポートを書く時は大変だったが、日本人の友達が日本語をチェックしてくれて、完成した。よかった。

→日本人の友達が日本語をチェックしてくれたおかげで、完成することができた。

#### 第7課文型3 ～ずにはいられない

医者からたばこをやめるように言われた。でも、友達が吸っているのを見たら、どうしても吸いたくなって、とうとう1本吸ってしまった。

→吸わずにはいられなくなって、とうとう1本吸ってしまった。

さらに、難易度が低くなりすぎないように、単にポイントの部分を書き換えるだけでなく、中級らしい語彙やより自然な表現に書き換えられるような問題も作成し、指導をした。

### 第3課文型5 ～ものの

半年前から料理教室に通っている。しかし、まだ作れるのは簡単なものだけだ。

私は料理のセンスがないのだろうか。

→半年前から料理教室に通っているものの、まだ簡単な料理しか作れない。

これは、後件をそのまま書くのではなく、「しか～ない」の形に変えてより自然な文にすることが求められる。その結果、単にターゲットの文型を使って書き換えるよりも難易度が上がり、よくできる学生にとっても意味のある練習となった。

## 3-2-2. 難しかった点

「中級Ⅱ」の文型の中には似たような意味のものがああり、言い換えの文を作る時、同じような文になってしまうことがあった。例えば第2課では「～をはじめ」と「～というふうに」という例示の文型が続けて出ている。「文型練習」では、どちらの文も「いろいろな」という言葉で言い換えている。

### 第2課文型7 ～をはじめ（第2課文型6 ～によって を含む）

スマートフォンが普及したので、ネット依存、スマホ老眼、ほかにもいろいろな問題が起きている。

→スマートフォンが普及したことによって、ネット依存やスマホ老眼をはじめ、いろいろな（さまざまな）問題が起きている。

### 第2課文型8 ～というふうに

BILでは夏はキャンプがある。冬は年末パーティーがある。このように、いろいろなイベントが楽しめる。

→BILでは夏はキャンプ、冬は年末パーティーというふうに、いろいろなイベントが楽しめる。

この2つの文型はそれぞれに使い分けのポイントはあるが、それを授業内でしっかりと理解させることは難しく、「文型練習」ではどちらの文型を使うか教師が説明する必要があった。

また、「中級Ⅱ」には理由、原因を表す文型も複数出ており、言い換えの文はいずれも「～ので」を使うものになった。

### 第1課文型6 ～ため

（駅員）今日は大雪が降ったので、電車が遅れています。

→本日は大雪のため、電車が遅れています。



## 第2 課文型6 ～によって（第2 課文型7 ～をはじめ を含む）

スマートフォンが普及したので、ネット依存、スマホ老眼、ほかにもいろいろな問題が起きている。

→スマートフォンが普及したことによって、ネット依存やスマホ老眼をはじめ、いろいろな（さまざまな）問題が起きている。

## 第6 課文型7 ～ところから

「サンドイッチ」はサンドイッチさんが考えたので、その名前がついたそう。

→サンドイッチさんが考えたところから、その名前がついたそう。

これらの文は提出されている課が違うため、「文型練習」実施時には問題にならなかった。しかし、このような文型を学習する際に、以前学習した似ている文型との使い分けのポイントを説明する必要がある。

「文型練習」では、元の文を読んで言い換えられる部分を見つけ出し、文型を使って書き換えることを目指したので、文の前件と後件を入れ換えて言い換えるタイプのものはできるだけ作らないようにした。しかし、文型の意味をできるだけ正確に表すために、問題の文の前件、後件を入れ換えざるを得ないものがあつた。

## 第5 課文型2 ～てまで

A：あの店、すごい行列だね！

B：本当だ！ここから2時間待ちだって！

A：えー！！ラーメンを食べるために2時間並ぶなんて…。

→2時間並んでまでラーメンを食べるなんて…。

このような文型は2つしかなく、このパターンに慣れていない学生にとって正しく書き換えるのが難しかったようだ。

他の言葉で説明できても、その言葉を該当する文型に換えるだけでいいという問題になってしまうものもあつた。例えば第2 課で学習する「～にわたって」は、「約30 年も」を「約30 年にわたって」に換えるだけなので、作成時には簡単すぎるのではないかという心配があつた。

## 第2 課文型3 ～にわたって

大隅教授は約30 年もこの研究を続け、今年ノーベル賞を受賞した。

→大隅教授は約30 年にわたってこの研究を続け、今年ノーベル賞を受賞した。

しかし、実際に学生に考えさせると、どの部分を書き換えるのかを学生が判断しなくてはいけないため、簡単すぎるということではなかつた。

どうしても他の文に言い換えられないものがあった。例えば第2課の文型「～てくる」を言い換えようとしても、「～てここにもどる」など非常に不自然なものになってしまう。その場合は無理に言い換えの形式にするのではなく、「文型作文」の問題を使い、下線に適当な文を書かせることにした。

#### 第2課文型1 ～てくる

A：ちょっとコンビニに行ってくるね。

B：あ、じゃあ 解答例) おにぎり買ってきてくれない？

A：うん、いいよ。

## 4. 「文型練習」を使用しての気付き

### 4-1. 気付き

#### 4-1-1. 学生にとって簡単なものと難しいもの

「文型練習」を含めた各課の内容を学習した後に行うテスト（以下「各課テスト」）の結果を通して、学生は前件と後件の順番が同じで、接続部分を入れ換えるだけのものは比較的簡単に書き換えられることがわかった。しかし、以下のようなものは難しかったようだ。実際に出た間違いの例と共に載せる。

#### ・文末を変えなくてはいけないもの

##### 第1課文型4 ～からといって

佐藤：アルンさんはタイ人だから、漢字が読めないよね。

だから、このメール、読むの難しいんじゃない？

田中：そんなことないよ。アルンさんはこのぐらいの漢字は全部読めるよ。

外国人でも漢字が読める人もいるよ。

→外国人だからといって漢字が読めないとは限らないよ。

(間違いの例)

- ・外国人だからといって漢字が読めるとは限らないよ。
- ・外国人だからといって漢字が読めない人が多いよ。

この問題は「からといって」と共に「～とは限らない」という表現がよく用いられることが理解できていない、またはこの表現自体が学生に定着していないため、正しく書き換えられなかったと考えられる。さらに、表現の形は覚えていても、「読めないとは限らない」が「読める人もいる」という意味に相当することがわからなかったり、深く考えずに形だけを当てはめてしまったりしたために、正しく書き換えられなかった学生もいた。

## ・複数の意味、使い方を持つ文型

### 第3課文型2 ～切る

今日は朝から10時間も仕事をしていたので、本当に疲れた。もう何もできない。

→今日は朝から10時間も仕事をしていたので、疲れ切った。

「～切る」には用法が3つあり、「食べ切れない」「読み切った」などの「全部終わる」という意味の用法は学生の記憶に残ったようだが、「非常に」という意味の用法はあまり記憶に残らず、どの文型を使って書き換えればいいのか、すぐにはわからなかったようだ。そのため、答えにたどり着くのに時間がかかる学生が何人か見られた。

## ・句読点の前以外を書き換えなくてはならないもの

多くの問題が読点の前や文末を書き換える問題であり、学生はその部分に注意していたようだ。そのため、以下のような問題で読点の前を書き換えようとして間違ってしまった学生もいた。

### 第8課文型8 ～うえで

今乗っている車が古くなったので、新しい車に買い換えようと思っている。車は大きい買い物だから、よく考えてから決めようと思う。

→車は大きい買い物だから、よく考えたうえで決めようと思う。

(間違いの例)

- ・車は大きい買い物のうえで、よく考えてから決めようと思う。

## ・助詞などの細かい書き換えが必要なもの

### 第3課文型7 いかにか

私は日本に留学して、初めて家族と離れて生活をした。今、さびしい時も、大変な時も、そばに家族がいない。留学して、家族が本当に大切だと実感した。

→留学して、家族がいかにか大切か(を)実感した。

(間違いの例)

- ・留学して、家族がいかにか大切かと実感した。

もともと細かい部分に注意しない傾向があった学生にとって、このように文型を使用することで助詞が変わってしまうものは正確に書き換えるのが難しいとわかった。

## 4-1-2. 当てはめる文型の混乱

学習した文型が増えてくると、共通する意味を持つ文型のうち、どれを使えばいいか混乱してしまった学生もいた。特に今回作成した「文型練習」の第1課から第3課は使用する文型を提示していなかったため、使用場面が全く異なる文型を当てはめてしまうというミスがあった。

(資料1「第1課文型練習(選択肢なし)」p.13参照)



### 第3課文型2 ～切る

昨日はデートだったのに、恋人が1時間も遅刻して来た。雨の中ずっと待っていたので、体がとても冷えた。手足が動かなくなるくらい冷えた。

→体が冷え切った。

(間違いの例)

- ・体がいかに冷えたか手足が動かなくなった。
- ・体が手足が動かなくなるほど冷えた。

1つ目の間違いである「いかに～か」は「～切る」と同様「とても～」や「本当に～」という言い換えになる。しかし、「いかに」の文型の場合、後件に「～と実感した、わかった、話した」などの表現を使うことは授業でも説明している。学生には「とても」という部分のみが記憶に残り、使い方の細かいポイントを覚え切れていないため、このような間違いが起きたと考えられる。また、2つ目の「ほど」は他の課で提出されている文型である。ここでは、第3課の文型を使用するように指示していたのだが、その指示に従っていないため、間違いとした。学んだ文型が増えてきて何課でどの文型を勉強したかがわからなくなったこと、日本語能力試験の対策授業で多くの文型を勉強していることなども、このような間違いが起きた理由の一つだと思われる。

このため、第4課から使用する文型の選択肢を与えることにした。その結果、全く違う文型を当てはめるといような間違いはなくなった。

(資料2「第4課文型練習(選択肢付き)」p. 17 参照)

### 4-1-3. 副詞の省略

中級の文型に込められた話者の心情を表すために、言い換えの文に副詞を入れたが、それをどの程度省略できるのかが、はっきりしているものとそうでないものがあつた。教師間でも意見が分かれ、はっきりしないものについては学生への指導に迷うことがあつた。

#### 第4課文型2 ～てはじめて

一人暮らしをすれば自立できるというわけではない。少なくとも自分で自分のことができなくてはいけない。それから、自立したと言えるのではないだろうか。

→自分で自分のことができてはじめて自立したと言えるのではないだろうか。

「～てはじめて」の言い換え文で使われている「少なくとも」は、「～てはじめて」の中に意味が含まれているので、不要である。

#### 第7課文型3 ～ずにはいられない

医者からたばこをやめるように言われた。でも、友達が吸っているのを見たら、どうしても吸いたくなって、とうとう1本吸ってしまった。

→(どうしても)吸わずにはいられなくなって、とうとう1本吸ってしまった。

一方、「～ずにはいられない」の言い換え文で使われている「どうしても」は、「～ずに

はいられない」と一緒に使っても問題がないように思われる。曖昧なままでは学生を混乱させてしまう可能性があるため、省略の可、不可をはっきり学生に伝えることは重要であり、教師間で事前に話し合う必要がある。

#### 4-2. よかった点

今回の「文型練習」の作成に伴い、「各課テスト」とアチーブメントテストの問題も文型の選択肢を提示し、問題の文を書き換える形式に作り換えた。「文型練習」からアチーブメントテストまでを一貫した形式で行うことにより、いくつかよい点があった。

まず、文型を理解したかどうかを学生、教師共にはっきりわかるという点である。「文型練習」では、使う文型を正確に選ぶ、正しい形で書き換えるなど練習のポイントがはっきりしているため、学生自身がどうして間違ったか、何が正しい文かをきちんと認識することができたと思われる。そして、間違えた部分を復習すれば正しい文が導き出せ、テストでも評価される。教師側はテストを見て、学生がきちんと復習したか、「文型練習」のフィードバックを聞いていたかがわかる。従来のように下線部分を自分で書く形式は、文型の意味を理解していても、その他の助詞や語彙などの細かいミスで点を落としてしまうことがあったが、書き換えの形式にすることで、そのような減点がなくなり、ターゲット文型の理解度をより忠実に測ることができたのではないか。それにより、学生は文型の理解度を自身で確認すると同時に「できた」という達成感も感じられたように思われる。

また、添削する際に教師間でわずれがなく、統一しやすくなった。従来の「文型作文」では、文脈が与えられていて解答の幅がある程度定まっているものの、やはり教師間で添削に違いが出たり、迷ったりすることがあった。しかし、「文型練習」では解答がはっきりしているため、そのようなことが起こらなかった。

このように学生、教師の双方にとって、文型を理解できているかどうか、理解できていない場合、何をどのように理解できていないのかを明らかにすることができた。そして、その気づきをフィードバックや復習に生かし、ポイントを絞って教えられたこと、テストで評価できたことはよかった。

#### 4-3. 「文型練習」をよりよいものにするには

今回作成した「文型練習」にはわかりにくい問題や必要以上に難しい問題、また、2名で作成したために教師によって言い換えのし方が異なる問題が含まれている可能性がある。今後も継続して使用し、学習者の間違いの傾向を明確にしつつ、いろいろな教師の目に触れることで、言い換えをよりわかりやすいものにしたり、難しすぎるものは難易度を調整したりする必要があるだろう。同時に、4-1-3. で述べた副詞の省略がどの程度許容できるのかについても、例文を収集するなどして正誤の境界線を決めて統一し、よりよい問題にしていければと思う。

## 5. 文型の練習とは

### 5-1. 産出か、意味理解か

今回作成した「文型練習」の到達目標は「文型の意味、文型への接続の形、その文型が使われる文体などを理解する」であった。そのため、学生が文型を使った文を産出するところまでは求めていない。ただし、問題が作成できない文型については従来の「文型作文」を利用して「中級Ⅱ」で学習する全ての文型を練習できるようにした。

全ての課の「文型練習」を作成、実施後、本当に全ての文型に対して問題を作る必要があったのだろうかという疑問が生まれた。文型の中には学習者が産出できるようになってもらいたい文型と意味理解でよい文型があるのではないかな。あるいはこちらが練習を用意しなくても学習者が産出できるような簡単な文型もあったのではないかな。むりやり練習を作成したことで、学生に余計な負担をかけてしまったのではないかなど、疑問や反省が出てきた。

また、「中級Ⅱ」終了レベルの学習者は全ての文型の意味、用法、接続の形などを確実に覚えるのは非常に難しい。現在はこのレベルの学習者に対して、全ての文型について同じように時間をかけて導入、口頭練習、書かせて理解度を確認しているが、本当にそうする必要があるのであるだろうか。

### 5-2. 文型一覧表の作成

中級の文型の中には産出できるようになるまで練習したほうがよいものと意味理解でよい文型があるのでは、という考えのもと、筆者らで話し合い、今後の文型指導の参考として文型を「産出を目標とするもの」と「意味理解のみでよいもの」に分け、一覧表を作成することにした。これはあくまでも「中級Ⅱ」終了レベルの学習者を対象とし、これまでの指導経験に基づいて分類したものである。

(資料3「中級Ⅱ終了レベルの学習者対象の文型の難易度・産出希望一覧」p.23 参照)

中級の文型の中には意味はわかりやすいが学習者が自ら使用することは少ないと思われるもの(硬い書き言葉やアナウンスなどで使用するもの)もあれば、うまく使えば個人の価値観や考えなど深い意味まで伝えられるものもある。それらを一覧表で表すために、今回の表は「難易度」と「産出希望」を分けて提示し、それぞれ3段階で表した。3段階の基準は以下の通りである。

(難易度)

○=難 個人によって認識や背景知識が異なり、意味が伝わりにくいものなど

例) ~からといって、~ものの、~まで (になる)

△=中 他の文型やその文型の他の用法と混乱しやすいもの

例) ~も…ば、~も、~と比べると

意味は理解しやすいが、文末表現や共起する表現に制限があり、注意が必要なもの

例) ~おかげ、~あまり

× = 易 既習の表現からの類推で意味がわかりやすいもの

例) ~にもかかわらず

形が簡単で意味もわかりやすいものや表現としての広がりがないもの

例) ~限り、~まる、~める

(産出希望)

○ = 産出を目標とする

その文型を使えば自分のことがより表現できるようになるもの

例) ~せい、~おかげ、~ずにはいられない

△ = できれば産出を目標とする

ある限られた場面で使えるとよいもの

例) ~ため、~を…という

× = 産出の必要なし

理解できれば十分なもの

または意味用法がわかりやすく、特に指導しなくても産出できると思われるもの

例) ~を通して、~に関して

産出希望「○」のものは授業での導入、口頭練習から、「文型練習」(「文型作文」)の添削とFB、テストにも出題し、文型の定着を図る。理想としては、学習者が発話や長作文で自然に使えるようになることを目指すものである。逆に「×」のものは意味理解のみでよく、書かせて添削をする必要がないと判断したものである。

### 5-3. まとめ

初級文型と違って中級文型では、話者の心情を表したり、話し手と聞き手の共通理解を前提としているものなど使用場面に制限があるものが多くなる。そのため、教師も学習者が書いた文が正しいかどうか判断が揺れる場合が生じる。今回の「文型練習」は学習者が産出した文ではないため、添削の際、教師の判断には揺れはないが、逆にそれがこの練習の限界とも言える。資料3の一覧で産出希望とした文型に対してどのような練習を準備し、学習者の理解度を測るのか、これまでの経験を踏まえたうえで新たなアプローチを模索していきたい。

### 注

- (1) 本稿では「学習者」を日本語を学ぶ学生の総称、「学生」を今回の教材の対象とした2015年度10月期5, 6組(ゼロスタートレベル)に在籍した学生とする。卒業時の在籍学生の国籍と人数は以下の通り。  
中国(香港含) 15名、台湾9名、韓国7名、タイ4名、インドネシア・トンガ・フィリピン各1名
- (2) 『文化中級日本語Ⅱ』では「文型・表現」という名称を用いているが、本稿では「文型」と呼ぶことにする。

資料1 第1課文型練習（選択肢なし）

文化中級日本語Ⅱ 第1課文型練習 文型・表現1～6

( ) 組 名前 ( )

■第1課の文型を使って、\_\_\_\_\_の部分を書き換えてください。

1. クラスのスピーチ代表に選ばれた。クラスの代表に選ばれるなんてすごいという人もいるが、私はせっかくスピーチ大会に出るのだから、絶対に優勝したい。

→ \_\_\_\_\_

2. A: このスピーカー、いい音だね。

B: やっぱりSONYの製品はとてもいいね！

→ \_\_\_\_\_

3. 日本の電車の中はとても静かだ。①携帯で話す人も、友達と話す人も少ない。電車の中で携帯を使えないのはちょっと不便だと思うが、②日本に住んでいるのだから、日本のマナーを守らなくてはいけない。

→① \_\_\_\_\_

→② \_\_\_\_\_

4. 佐藤: アルンさんはタイ人だから、漢字が読めないよね。

だから、このメール、読むの難しいんじゃない？

田中: そんなことないよ。アルンさんはこのぐらいの漢字は全部読めるよ。

外国人でも漢字が読める人もいるよ。

→ \_\_\_\_\_



5. (駅員) 今日は大雪が降ったので、電車が遅れています。

→ \_\_\_\_\_

■ 第1課で勉強した文型を使って、\_\_\_\_\_に適当な文を書いてください。

1. A: 顔色が悪いよ。今日は帰ったら?

B: いや、今日締切りの課題をまだ出していないから、

\_\_\_\_\_。

2. 日本には野球ファンが多い。友達によく「どのチームのファン?」と聞かれるが、私は興味がないので、答えに困ってしまう。

日本人だからといって、

\_\_\_\_\_。

## 文化中級日本語Ⅱ 第1課文型練習 文型・表現1～6

解答

■第1課の文型を使って、\_\_\_\_\_の部分を1つの文に書き換えてください。

1. クラスのスピーチ代表に選ばれた。クラスの代表に選ばれるなんてすごいと言う人もいるが、私はせっかくスピーチ大会に出るのだから、絶対に優勝したい。

→スピーチ大会に出るからには、(絶対に) 優勝したい。

2. A: このスピーカー、いい音だね。

B: やっぱりSONYの製品はとていいね!

→さすが、SONYが作っただけ(のことは) あるね!

3. 日本の電車の中はとても静かだ。①携帯で話す人も、友達と話す人も少ない。電車の中で携帯を使えないのはちょっと不便だと思うが、②日本に住んでいるのだから、日本のマナーを守らなくてはいけない。

→①携帯で話す人はもちろん、友達と話す人も少ない。

→②日本に住んでいるからには日本のマナーを守らないわけにはいかない。

4. 佐藤: アルンさんはタイ人だから、漢字が読めないよね。

だから、このメール、読むの難しいんじゃない?

田中: そんなことないよ。アルンさんはこのぐらいの漢字は全部読めるよ。

外国人でも漢字が読める人もいるよ。

→外国人だからといって漢字が読めないとは限らないよ。

5. (駅員) 今日は大雪が降ったので、電車が遅れています。

→ 本日は大雪のため、電車が遅れています。

■ 第1課で勉強した文型を使って、\_\_\_\_\_に適切な文を書いてください。

1. A: 顔色が悪いよ。今日は帰ったら?

B: いや、今日締切りの課題をまだ出していないから、

帰るわけにはいかないんだ。

2. 日本には野球ファンが多い。友達によく「どのチームのファン?」と聞かれるが、私は興味がないので、答えに困ってしまう。

日本人だからといって、

野球が好きだとは限らない。

## 資料2 第4課文型練習（選択肢付き）

## 文化中級日本語Ⅱ 第4課文型練習 文型・表現1～9

( ) 組 名前 ( )

■第4課で勉強した    の中の文型のどれかを使って、\_\_\_\_\_の部分を  
1つの文に書き換えてください。

- ・～も…ば、～も…（文型1）      ・～てはじめて（文型2）
- ・～かねない（文型3）              ・～にもかかわらず（文型6）

1. 一人暮らしは自由である一方、生活が不規則になりやすいという面もある。  
そして、①不規則な生活を続けていたら、体調を崩す可能性がある。また、  
一人暮らしをすれば自立できるというわけではない。②少なくとも自分で  
自分のことができなくてはいけない。それから、自立したと言えるのでは  
ないだろうか。

→① \_\_\_\_\_

→② \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

2. まだ11月なのに、関東各地で雪が降った。これは、<sup>かんそくくらい</sup>観測以来54年ぶ  
りのことだそうだ。

→ \_\_\_\_\_

3. 留学生活というのは楽しい。でも、ときどき大変だ。しかし、大切なこと  
は、目標を持って日々の生活を送ることだ。

→ \_\_\_\_\_

■第4課で勉強した文型を使って、\_\_\_\_\_に適当な文を書いてください。

1. 両親と住んでいた時は、いろいろ注意されてうるさいと思っていたが、

\_\_\_\_\_てはじめて\_\_\_\_\_。

今度帰国した時は、一緒に楽しい時間を過ごそうと思う。

2. A：おもしろかったね、この映画。

B：うん。\_\_\_\_\_ほど笑ったのは久しぶりだよ。

3. A：Bさんの地元って、どんなところなの？

B：う～ん。すごく田舎だよ。何にもない。

だって、近くに\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_んだから。

A：へえ、そうなんだ。

4. 先生：ラフルさん、また漢字のクイズが悪かったですね。

漢字を勉強する気がないんですか。

ラフル：無理です。漢字はもうあきらめました。

先生：何言ってるんですか。卒業した後、専門学校に行くんでしょう？

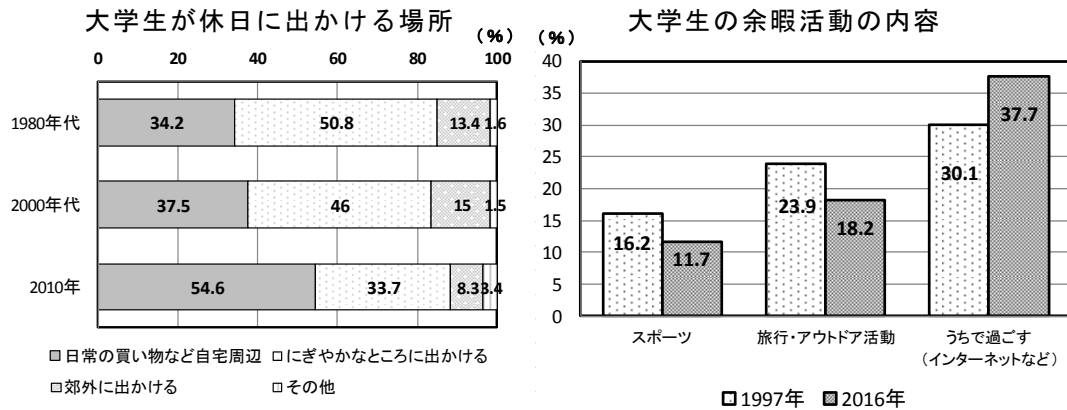
今がんばって勉強しておかないと、

\_\_\_\_\_ことになりますよ。



■下のグラフと、グラフに関する文章を読んでください。「のに対し」か「と比べると」のどちらかを使って \_\_\_\_\_ の部分を1つの文に書き換えてください。

また、 \_\_\_\_\_ には適当な言葉を書いてください。



このグラフは、「大学生が休日に出かける場所」と「大学生の余暇活動の内容」のグラフである。「休日に出かける場所」のグラフから、①2010年は1980年代、2000年代より自宅周辺に出かける大学生が多いことがわかる。また、「余暇活動の内容」のグラフを見てみると、②スポーツや旅行・アウトドア活動をする大学生は減っている。反対に、うちで過ごす大学生は増えている。これはおそらくインターネットやゲーム機などが普及し、お金を使って遠くに出かけなくても楽しめるようになったからではないだろうか。

今後もこのような傾向が \_\_\_\_\_ と考えられる。

→① \_\_\_\_\_

ことがわかる。

→② \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_。

## 文化中級日本語Ⅱ 第4課文型練習 文型・表現1～9

解答

■第4課で勉強した   の中の文型のどれかを使って、  の部分を  
1つの文に書き換えてください。

- ・～も…ば、～も…（文型1）      ・～てはじめて（文型2）
- ・～かねない（文型3）              ・～にもかかわらず（文型6）

1. 一人暮らしは自由である一方、生活が不規則になりやすいという面もある。  
そして、①不規則な生活を続けていたら、体調を崩す可能性がある。また、  
一人暮らしをすれば自立できるというわけではない。②少なくとも自分で  
自分のことができてはいけない。それから、自立したと言えるのでは  
ないだろうか。

→①不規則な生活を続けていたら、体調を崩しかねない。

→②自分で自分のことができてはじめて自立したと言えるのではないだ  
ろうか。

2. まだ11月なのに、関東各地で雪が降った。これは、観測以来かんそくいらい54年ぶ  
りのことだそうだ。

→まだ11月（である）にもかかわらず、関東各地で雪が降った。

3. 留学生活というのは楽しい。でも、ときどき大変だ。しかし、大切なこと  
は、目標を持って日々の生活を送ることだ。

→留学生活というのは楽しいこともあれば、大変なこともある。

■第4課で勉強した文型を使って、\_\_\_\_\_に適切な文を書いてください。

1. 両親と住んでいた時は、いろいろ注意されてうるさいと思っていたが、

例) 留学し／離れて暮らし てはじめて 親の大切さに気付いた。

今度帰国した時は、一緒に楽しい時間を過ごそうと思う。

2. A : おもしろかったね、この映画。

B : うん。 涙が出る ほど笑ったのは久しぶりだよ。

3. A : Bさんの地元って、どんなところなの？

B : う～ん。すごく田舎だよ。何にもない。

だって、近くに 駅もなければコンビニもない んだから。

A : へえ、そうなんだ。

4. 先生 : ラフルさん、また漢字のクイズが悪かったですね。

漢字を勉強する気がないんですか。

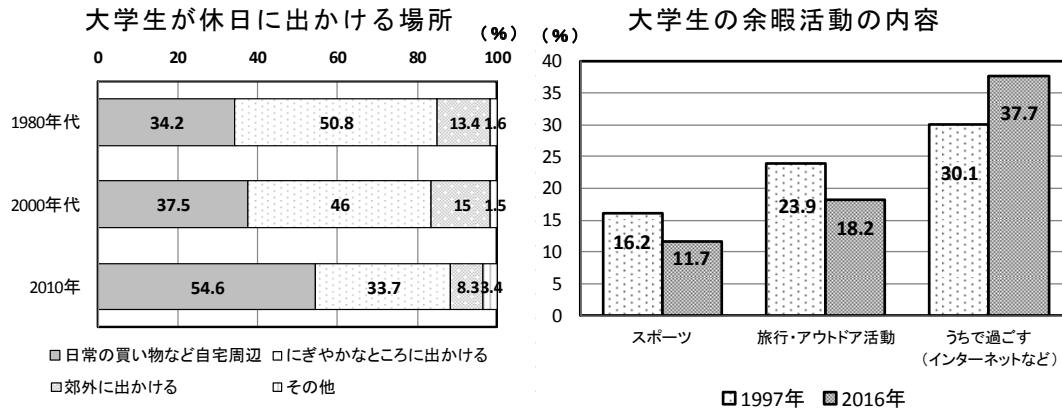
ラフル : 無理です。漢字はもうあきらめました。

先生 : 何言ってるんですか。卒業した後、専門学校に行くんでしょう？

今がんばって勉強しておかないと、

困る ことになりますよ。

- 下のグラフと、グラフに関する文章を読んでください。「のに対し」か「と比べると」のどちらかを使って \_\_\_\_\_ の部分を1つの文に書き換えてください。
- また、 \_\_\_\_\_ には適当な言葉を書いてください。



このグラフは、「大学生が休日に出かける場所」と「大学生の余暇活動の内容」のグラフである。「休日に出かける場所」のグラフから、①2010年は1980年代、2000年代より自宅周辺に出かける大学生が多いことがわかる。また、「余暇活動の内容」のグラフを見てみると、②スポーツや旅行・アウトドア活動をする大学生は減っている。反対に、うちで過ごす大学生は増えている。これはおそらくインターネットやゲーム機などが普及し、お金を使って遠くに出かけなくても楽しめるようになったからではないだろうか。

今後もこのような傾向が 強まっていく と考えられる。

- ①2010年は1980年代、2000年代と比べると、自宅周辺に出かける大学生が多いことがわかる。
- ②スポーツや旅行・アウトドア活動をする大学生は減っているのに対し、うちで過ごす大学生は増えている。

資料3 中級Ⅱ終了レベルの学習者対象の文型の難易度・産出希望一覧

難＝難易度 産＝産出希望

課	番号	文型	用法(複数あるもののみ記載)	難	産
1	1	～からには		○	○
	2	～だけあって		○	○
	3	～わけにはいかない		○	○
	4	～からといって		○	○
	5	～はもちろん…も		×	×
	6	～ため		×	△
2	1	～てくる		○	○
	2	～限り		×	×
	3	～にわたって		○	×
	4	～ほど…はない		×	○
	5	～おかげ		△	○
	6	～によって		×	×
	7	～をはじめ		×	×
	8	～というふうに	後に述べることをわかりやすくするために具体的な例を挙げる 後に述べるやり方や動作を具体的に説明する	×	×
3	1	～を…という		×	△
	2	～切る	勢いよく、自信や勇気を持って何かをする	×	×
			全部終わる・完了する	×	○
	3	～た結果	完全に、または非常にという意味を強調する	○	×
			前件に原因・理由を示し、その結果として起こった変化を後件で述べる	×	×
	4	～どころか	調査や相談の後で結論を出す	×	○
			前件と後件が全く正反対の関係	×	○
	5	～ものの	予想したことよりさらにいい、または悪いと説明したい時	○	△
				○	×
	6	～を通して		×	×
4	1	～も…ば、～も	いろいろな場合がある 二つのことが同時に備わっている	△	○
	2	～てはじめて	それが最低条件である	○	×
			それがきっかけとなって 最初の経験であることを強調する	×	○
	3	～かねない		×	×
	4	～ことになる	それに相当する	○	×
			そういう結果になると予想される 決定された	△	×
	5	～ほど		×	×
	6	～にもかかわらず		×	○
	7	～のに対し		×	△
	8	～と比べると		△	△
5	1	～に代わって		×	×
	2	～てまで		○	○
	3	～せい		×	○
	4	～というのは…からだ		×	○



	5	～あまり		△	△
	6	～だけに		○	×
	7	～にすぎない		△	×
6	1	～に関して		×	×
	2	～を通じて		×	×
	3	～ばかり		×	△
	4	～にしたがって		×	×
	5	～において		×	×
	6	～まで(になる)		○	△
	7	～ところから		×	×
	8	～と共に	一緒に／同時に Aが変わるとBも一緒に変わる	×	×
	9	～際(に)		×	×
7	1	～から…に至るまで		×	×
	2	命令形		×	△
	3	～ずにはいられない		×	○
	4	～ざるを得ない		×	○
	5	～ことに		×	×
	6	～がち		×	×
8	1	～つつある		×	×
	2	～と同時に	Aが起こると、その一方でBも起こる Aでもあり、Bでもある	×	×
	3	～ばかりに		×	○
	4	～べき		×	△
	5	ということは、～		×	×
	6	～っぱなし	そのままの状態が続く その行為が何度も繰り返される、同じことを続ける	×	○
	7	～で済む		△	○
	8	～うえで	何かをする時、場合、目的において その後で	×	×